プロジェクト名称

いくべっ！福島支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

東日本大震災から約４年半が経過し、少しずつ復興の目処が立ってきているが、まだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の作業が難しい。また福島県の農家の方々は放射線量を下げるために様々な努力や工夫を行っているが世間には広く知られていないのが現状である。このことが、市場に出回っている福島産の食品は安全であるが、一部の消費者に嫌悪されてしまう原因の一つとなっている。 そこで私たちはそのことにスポットを当てて、消費者に正しい情報を発信していき、消費者と生産者の橋渡しを行っている。具体的には様々なイベントへの参加、及び福島産のものを販売しながらの呼びかけや、自分たちで企画した福島ツアーを実施するなどしている。また、震災の記憶の風化防止ということも目的の一つとして活動を行っている。被災地にはまだ避難生活を余儀なくされている方や、支援の手を必要としている方が沢山いるが、震災から月日が経つにつれ日常的に震災に関するニュースを聞くことが少なくなってきた。そこで講演会や展示会を開催し、一般の方に再度震災を考えてもらう機会を提供している。そして、「福島は震災のあった場所」というイメージを払拭出来るように、福島の魅力や福島の正確な現状などを発信するような活動を行っている。

活動状況報告＆活動写真など　　活動期間：2015 年 10 月 1 日 ～ 12 月 31 日

○福島視察　２０１５年１０月１０日

芝浦祭で屋台と展示会を行うにあたって、福島の「今」を知るため現地へ視察に向かった。

一カ所目は JA 伊達みらいさんが運営している「みらい百彩館　んめ～べ」を訪問した。んめ～べは大宮祭や東大宮サマーフェスティバル、芝浦祭などで屋台を出す際に幾度となくお世話になってきた店舗である。そちらで働いている方からは福島県産の農作物の現状や、風評被害がまだ続いていることなどを伺った。風評被害の低減は、私たちが屋台で福島県産のものを販売する一番の目的であるので、改めて自分たちの活動の意味を認識させられる良い機会となった。

二カ所目は、ちょうど一年前に視察で訪問したいわき市の久ノ浜に再び行き、昨年と同じ佐藤トミ子さんに話を伺うことができた。主にこの一年での変化について話をしていただいたが、住民の方々が中心となってよりよい町にという思いは全く変わっていないようであった。また、海岸沿いを案内していただいたとき、防潮堤が以前よりずっと高くなっており、確実に復興が進んでいることを感じることができた。

今回の視察で訪問した二か所は、どちらも初めてではなかったため、以前よりもさらに深い話を伺うことができ、よりリアルな福島の「今」を知ることができた。このような話を伺う機会はとても貴重であるため、今後も継続して訪問したいと考えている。

んめ～べで話をきく様子

昨年はなかった防潮堤

〇芝浦祭　２０１５年１１月６日～１１月８日

今年も芝浦祭に参加し、屋外の屋台スペースで販売を、さらに屋内のフリースペースで展示会を行った。

屋台では、東北地方名物の芋煮を福島で親しまれている味付けで販売した。芋煮の具材は、１０月に伺った、んめ～べから取り寄せた福島県産の新鮮な農作物を使用した。寒くなり始めた時期であったため、ボリュームたっぷりの温かい芋煮は好評であり、リピーターの方も多かった。具材にこだわった屋台は珍しかったようで、購入してくださった方と会話をすることができ、有意義な交流となった。

昨年も挑戦した展示会を、今年は屋内のフリースペースで行うことで、より多くの方々に見てもらえるよう工夫した。展示したポスターの内容は、１年ぶりに訪れた久之浜の復興の過程を紹介したもの、視察で訪問したんめ～べで学んだ福島の今の農業について、福島と若者について、福島のおすすめスポット、などである。さらに、立体的な地図の製作をするなど、少しでも来場者の目を引けるようにした。また、小さな子供も多く来場されるので、きっかけづくりやアクティビティの場として、福島の名産品赤べこを折り紙でつくるコーナーも設けた。３日間を通して、想定より多くの方が展示品を見てくださった。貴重な意見も聞くことができ、勉強になる良い機会であった。赤べこ作成コーナーは賑わい、かなりの数の方々が個性あふれる赤べこを作成していた。

昨年の反省を生かし、事前準備を念入りに行っていたため、大きなトラブルはなく３日間活動ができた。芝浦祭は私たちの活動のなかで最も多くの方と接することができる機会である。今回はその利点が十分に生かし、充実した活動ができた。

屋台での芋煮販売

展示会の様子

今後の活動計画、目標、意気込みなど

今後の活動計画としては、2 月に福島視察を行う予定である。いつもの視察とは少し異なり、初対面の方に会いに行くのではなく、今までお世話になった方を再び訪問しようと思っている。そうすることで、福島の今を知るだけでなく、以前訪問した時から現在まで、どのように復興が進んでいるのかを、より知ることができるのではないかと考えている。

またその他の活動としては、来年度に向けての話し合いを行う予定である。活動の目的を見つめ直し、少しでもその目的を達成できるよう努めていく。